
俺たちのカート！！

FrangBeat

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺たちのカーデ！！

【ZPDF】

Z7686Z

【作者名】

Fran gobeat

【あらすじ】

「武藤遊戯」「遊城十代」「不動遊星」「九十九遊馬」

のそれぞれと旅をした唯一のデュエリスト、桃里遊我。
彼の旅は終わつたかに思われた。
だがしかし、再び彼の旅が始まる。

Episode: 0～始まつ～（前書き）

この作品ではオリジナルカードが出てきます。
何か案があればメッセお願いします。

その際、「カード名」「効果」「その他必要事項」を記載してください。
さい。

詳しくは活動報告に記載しますのでそちらを「」覗ください。

Episode 0～始まり～

桃里遊我。

デュエリスト。

過去に活躍した「武藤遊戯」「遊城十代」「不動遊星」「九十九遊馬」のそれぞれと旅をしてきた唯一のデュエリスト。

「あの旅はすごい楽しかった・・・」

4人との旅を懐かしく、そしてたのしく思っていた。

「また旅がしたいな・・・」

そう思っていた。

く桃里遊我・・・お前にはやるべきことがある・・・く

「何だ?!」

突然に声が聞こえた。

く旅をするのだ・・・さらなる旅を・・・く

「何だ?!.誰だ!?.どこにいる?!.」

不思議な声が聞こえた。

「それは旅を終えた桃里遊我が家に帰宅した日のことだった。

「一番遊戯さんとの旅が楽しかったな・・・」

カードを一枚取り出し見つめた。

「ブラック・マジシャン」

武藤遊戯のエーススカーデ。

旅の記念にくれた。遊戯はまたブラック・マジシャンを手に入れるといつていた。

そして、

「E・HEROネオス」

遊城十代のエーススカーデ。

「スター・ダスト・ドラゴン」

不動遊星のエーススカーデ。

「ゼロ・39希望皇ホープ」

九十九遊馬のエーススカーデ。

歴世のデュエリストたちのエースカードを遊我は所持していた。

「俺のエースカード・・・・・BP - ゲイボルグ・・・・・ありがとな・・・・・」

桃里遊我のエースカード。

「ブラック・パラディン
BP - ゲイボルグ -」

このカードに何度助けられただろう。

ピンチの時にドローすると必ず来てくれた。

「ありがとな・・・・・ゲイボルグ・・・・・」

そんな時・・・・・

〈桃里遊我・・・・・お前の旅は終わっていない・・・・・〉

「誰だ? ? ! !」

何者かの声が聞こえた。

〈また旅を始めろ・・・・・そして新たなるデュエリストたちと戦え・・・・・〉

「新たなるデュエリスト? ?」

〈ああ・・・・・そうだ・・・・・戦え・・・・戦え! ! ! !〉

「・・・・・わかつた・・・・」

この瞬間から彼。桃里遊我の新たなる旅が始まるのだった。

2話「バカとテストと召喚獣の世界」

謎の声に導かれて旅を始めた桃里遊我。

旅の最初に出会った人は優しい人だった。

「すいません。ここいらにテュエリストがいるって聞いたのですが。

「ああ、それならあそこに行こうよ。」

とその現地の人が指をさしたのは学校のような場所だった。

「じゃあ……」

その建物には「文月学園」と書いてあった。

「文月学園……？学校か……」

ここにテュエリストがいるのかは正直怪しかった。

怪しかつたが学園内に入つてみると、

すると……

「ターンエンド……」

という声が聞こえた。

「ほんとにテュエリストが存在するのか……」

校舎内に入り、声が聞こえた場所まで行つた。

そこに広がっていたのは、謎の空間でモンスターがバトルしている風景だつた。

「なんだこれは……？？」

驚き声を出してしまつた。

「だれ？！」

ガラッ

ドアが開き、遊我は見つかってしまった。

「…………んでなんでこんなところにいるのよ。」

島田美波といつも生徒は遊我に聞いた。

「俺は…………テュエリストがいると聞いてきたんだ。」

「テュエリスト？まあいのけど」

「テュエルしたいんだ！！できれば強い奴と……」

うへん…………とみんなが考へてる中、

「わかった！！俺がやる……！」

と声を上げたのは吉井明久という人だった。

「手加減はしないぜ！－！見ててね姫路さん。」

「はい。」

「じゃあ、開始しようか。」

「「デュエル！－！－！」」

明久ＶＳ遊我のデュエルが始まった。

3話「バカとヒストリカル魔界」（前書き）

ほとんどの章です。

なので「」の前にしゃべってる人の名前いれておきます。

この話で出てくる「BP」は「ブラックパラディン」と読みます。

3話「バカとテストと召喚獣の世界」

桃里遊我：L P 4 0 0 0

吉井明久：L P 4 0 0 0

明：「僕のターン！……ドロー……！」

（一体……何のデッキを使っているのかわからない……責める準備をしておこう……）

明：「フィールド魔法、幽獄の時計塔を発動！……！」

遊：「D・HEROか。」

明：「D・HEROドレッジサーヴァントを召喚！……効果により幽獄の時計塔に時計カウンター1つを乗せる！……！」

遊：「ふむ……」

明：「カードを一枚伏せてターンエンド！……！」

遊：「ドロー。」

明：（奴は一体何のデッキだ……）

明：「スタンバイフェイズに幽獄の時計塔に時計カウンター1つを乗せる！カウンターは2つ！……！」

遊：「別に大したことではない。魔法カード、おろかな埋葬を発動。

デッキから、BPゲイボルグを墓地に送る。」

明：「BP？！聞いたことないな・・・」

遊：「手札のBPツインソードを墓地に送り、ダーク・グレファーを特殊召喚。」

明：「墓地操作系のデッキか・・・」

遊：「ダーク・グレファーの効果で、手札のデッドアライブを墓地に送り、デッキからBPエンジェルソフィアを墓地に送る。」

明：「墓地がすでに4枚か・・・」

遊：「墓地のBPツインソードとBPエンジェルソフィアを除外し、BPゲイボルグを特殊召喚。」

明：（やばいな・・・負けるかもしれない。）

遊：「BPソフライアジー二アスを召喚。効果により、お前のフイールドにいるD・HEROドレッドサーヴァントを破壊。」

明：「くつーーー！」

遊：「効果で相手に破壊したモンスターのレベル×300ポイントのダメージを与える。」

吉井明久：LP 3100

遊：「魔法力ード。サイクロンを発動。その伏せカードを破壊する。」

「

明：「くつ・・・聖なるバリアミラー・フォース・・・」

遊：「墓地の『デッド アライブ』の効果を使い、『デッド アライブ』を除外。除外されているツインソードとエンジェルソフィアを墓地に戻す。再び除外し、BPツインソードを特殊召喚。」

島田美波：「明・・・」

明：「やばい・・・」のままじや・・・」

明：（手札にはバトルフェーダー・・・）のターンはしのげる・・・（）

遊：「甘い・・魔法カード手札抹殺。お互いに手札をすべて捨てて、その枚数分ドローする。俺はドローはなし。」

明：（！…バトルフェーダーが！…）

遊：「やはりバトルフェーダーがあつたか。バトル…！BPツインソードでダイレクトアタック！！」

明：「うわあ…！」

吉井明久 LP：100

遊：「BPゲイボルグでダイレクトアタック。」

明：「うわああああ…！」

吉井明久 L.P. : 0

遊：「何だ。この程度か。強いんじゃなかつたのか。吉井明久。」

明：「くそつ・・・・負けた・・・・強い・・・・」

姫路：「あなたはいつたい何者なんですか？！」

遊：「桃里遊我。旅をしながらデュエルをしている。」

美波：「旅の目的は？？」

遊：「目的・・・・わからない・・・・」

美波：「わからない？！」

そう。桃里遊我は旅の目的を知らずに今、吉井明久とデュエルをしていた。

遊：「目的・・・・」

明：「とりあえず、たのしいデュエルだつた。僕もその旅に参加したいな。」

美波：「うちも！――」

秀吉：「わしもじゃ。」

姫路：「わ、わたしも・・・・」

土屋：「俺も行こうかな。」

雄二：「なんだ？？旅か？？俺も行くぞ！」

気が付けばこんなに集まっていた。

遊：「まあいい。大勢の方が早く目的もみつかるだろうしな。」

明：「よしー改めて自己紹介をしよう。僕は吉井明久。」

姫：「私は姫路瑞希。」

美：「うちは島田美波。」

秀：「わしは木下秀吉じや。見ての通り男じや。」

遊：「え？男だったのか・・・てっきり女の子かと。」

秀：「おぬし初対面であろう？？？初対面の奴にもいわれるのか・・・」

土屋：「俺は土屋康太。ムツツリーーと呼ばれている。」

雄：「俺は坂本雄二だ。」

遊：「よろしくな。それぞれ使うテック教えてくれ。」

明：「僕はさつきので知ってると思つけど、HEROだよ。」

姫：「私はアルカナフォース。」

美：「うちはサイキック。」

秀：「わしは忍者じや。」

士：「俺はSIEZ。」

雄：「俺はインフェルニティ。」

ちよつと・・・私を忘れてない・・・？雄一・・・

雄：「げつ！翔子！..」

翔：「私は霧島翔子。使用デッキはトークンデッキ。旅についていく。や、雄一。」うちは・・・

雄：「いやー翔子！やめーやめろおおおー！！」

「うして文月学園F組の主要面子が旅の仲間になつた。」

4話／けいおんの世界へ

文丘学園Fクラスの仲間たちと一緒に旅をする」となった桃里遊
我。

ずっと歩いてみると世界が変わった。

「…………？」

見ると変わった街だった。

そこには「私立桜が丘高等学校」と書いてあった。

「女子高か…………」

突然…………

バタン…………

「何だ?……」

ムツツローーーが鼻血を出して倒れていた。

「ど、どうした…………？」

「ああ。こつも「こんな感じじゅ。『氣にせん』でおくれ。」

「あ、ああ…………」

少し入ることに気が引けたが、デュエリストの勘が呼んでいた。

「…」

と。

丁度私立桜ヶ丘高等学校では学園祭が行われていた。

講堂に行つてみると、

「ふわふわターコイム」

放課後ティータイムと呼ばれるバンドがライブを行つていた。

「バンドか・・・少し見ていくか。」

「あの子の衣装可愛い」

「私も着てみたいです」

女子群。島田美波と姫路瑞希は話していた。

「今日は、放課後ティータイムのライブに来ててくれてありがとうございました！」

「ライブが終わり」

「あのー」

「はい？」

遊我は放課後ティータイムのボーカル、平沢唯に声をかけてみた。

「アリスリストってありますか？？」

「ん？？いるよ？？私たち放課後ティータイムはみんなだよ？？」

「マジで？！じゃあおひつとお願いがあつて・・・」

「ん？？」

「俺たちとアリスリストしてくださーーー。」

「ん？？いよ？？ちよつと待つてねー」

唯はみんなにその趣旨を伝えた。

「お前らかーーーアリスリストしたいと言つてゐるのねーーー。」

「あ・・あ・・」

「部長でアリスの田井中律だ。よーくべー。」

「よひじべー。」

「ベースの秋山遼だ。」

「キーボードの琴吹紗です。」

「ギターの平沢唯だよ」

「同じくギターの中野梓です。」

「桃里遊我だ。」

「吉井明久だ。」

「姫路瑞希です。」

「島田美波よ。」

「木下秀吉じゃ。男じゃ。」

え？！男？？！？女の子かと思つてた・・・」

「おぬしの手で……」

一
土屋康太
』

坂本雄一だ。

一 霧島翔子

ପ୍ରକାଶକ ପରିଷଦ

「さて、デュエルをはじめようか。」

「...」

放課後ティータイム▽S 桃里遊我+文月学園のデュエル開始。

5話「けいおんの世界へ（前書き）

再び「こ」もわからにくくなるとこけないのでセリフの前に名前を入れます。

セリフだけです。遊我が別の「トック」を使い始めますwww

5話「けいおんの世界」

遊：「じゃあ、組み合わせは……」

唯：「私と遊我君やうづか。」

遊：「ああ。」

澪：「なら私が明久君と。」

明：「うん。」

紬：「じゃあ、私が姫路さんと。」

姫：「はー。」

雄：「おひ。」

律：「じゃああたしは、雄一君かな??」

梓：「じゃあ……島田さんとで……」

美：「や、やつてやるわよー。」

土：「あれ??俺は???」

翔：「私も……余つた……」

とつあえず余つた二人は置いといて……

「デュエルは開始された。

各自やっているが、遊我 vs 唯を見てこい。」

遊 : 「よろしく。」

唯 : 「うそよろしく。」

「「デュエル……。」

平沢唯 LP : 4000

桃里遊我 LP : 4000

唯 : 「私のターン…ドロー…。」

遊 : 「何のトックキだ…?」

唯 : 「魔法カード…おろかな埋葬を発動!」

遊 : 「ふむ…。」

唯 : 「デッキからワイトを墓地に送る。」

遊 : 「ワイトか…。」

唯 : 「ダーク・グレファーを召喚。手札のワイトを墓地に送り、デッキからワイトキングを墓地に送る。」

唯 : 「カードを一枚セットしてターンEND。」

遊：「ドロー。高等儀式術を発動。」

唯：「はい。」

遊：「終焉の王ガラスを指定。テッキからメカハンター2体を墓地に送る。」

唯：「ふんふん・・・」

遊：「デミスを召喚。2000ポイント払つてお前のフィールドのカードすべてを破壊する。」

桃里遊我 LP：2000

唯：「やっぱーーー。」

遊：「そして、ブラック・ボンバーを召喚。」

唯：「まさか・・・。」

遊：「墓地のメカハンターを特殊召喚。そしてレベル7シンクロ。」

唯：「なんか嫌な予感がする・・・。」

遊：「現れよ！－ダーク・ダイブ・ボンバー！－！」

唯：「やつぱり！－！－！」

遊：「デミスでダイレクトアタック。」

平沢唯 LP : 1600

遊：「ダーク・ダイブ・ボンバーの効果で『ミスをリリース。 16
00ポイントのダメージを』『える。』

唯：「お、終わり……」

平沢唯 LP : 0

この勝負と同時にそのあとに文丘学園のメンバーは全員勝った。

そして……

唯：「ふう～ん……旅をね～～……楽しそう……！」

律：「おうー行つてみるかー！」

澪：「ちよー学校はー？」

律：「まあまあ。大丈夫だつて！」

紬：「さすがに学校を抜けるのはちよつと……」

梓：「まざいと思いますー！」

遊：「そうか。なら無理に誘わないよ。ありがとな。デュエルして
くれて。楽しかったぜ。」

唯：「うんーーまたやるつねーーえっと……遊我君ーー！」

遊：「おうーーまたなーー！」

全員：「じゃ～～ね～～！～～！」

デュエルを終わらせて私立桜が丘女子高等学校を後にする旅人達。

次の世界は一体・・・・・

？？？：「くくく・・・負けるわけねえじゃん・・・だつて俺王

謎の笑い声と影がそこにあつた。

6話、REBORN!の世界

桜が丘女子高等学校を後にした桃里遊我 + 文月学園は、次の世界に
きた。

「さて・・・」の世界は・・・?」

「ランボー！！！そつち行くなーー！」

ランボさん遊ぶんだもんねー！！！」

ドスン！

一
か
・
ま
・
ん
・
・
・
痛
あ
あ
あ
い
い
い
い
い
い
！」

あお・・・じめんじめん・・・

謎の鹿みたいな生物は「シカホ」と呼ばれていた

「ごめんなさい！！！大丈夫でしたか？？」

ー
ああ。
大丈夫だ。

そこへいえはあなたたちは？？見なし顔ですけど。。。

一 僮は桃里遊我

「俺は沢田綱吉。ツナつて呼んでくれ。」

「おう。ちょっと聞きたいんだが。」

「ん?」

「デュエリスト??いるか??」

「デュエリスト??いるよ。俺たちのアジト!!。」

「アジト??マフィアかよ・・・」

「まあ・・・マフィアだね。」

「マジかよー?」

「うう。」

沢田綱吉は遊我たちを案内した。

「十代目・・・お帰りなさい。」

「ただいま。獄寺君。」

「その方たちは??」

「桃里遊我だ。よろしく。」

「獄寺隼人。十代目の右腕だ。」

「十代目??」

「ここにはボンゴレファミリー十代目。沢田綱吉だ。」

「つま？！なんか小さい赤ん坊いる……」

「俺はリボーン。ツナの家庭教師だ。」

「ふう～ん……」

「で、何のようだ？」

「（レジ）に（テコ）エリストがいると聞いてな。」

「俺のことか？？」

「山本……」

「お前が『テコエリストか。テコエルだ！』

「ん？？いいぜ。始めるか。」

「『テコエル！』」

6話～REBORNZ～の世界～（前書き）

再びテュエル回。

同じく名前入り。遊我の「テツキ」が戻っています。

q

6話「REBORNZ-の世界へ

山本武 LP : 4000
桃里遊我 LP : 4000

武：「俺のターン……アローニー！」

武：「カードを一枚セッテーンターンヒンギー！」

遊：「何？！まあ・・・いいか・・・アローニー。」

遊：（何のデッキだ？）

武：「罷発動！！威嚇する咆哮！」のターンお前は攻撃宣言ができる
ない！」

遊：「ウウ・・・」

武：「へへへ。」

遊：「おろかな埋葬を発動。デッキからBPアシインソードを墓地に
送る。」

武：「BP？」

遊：「手札からBPエンジュルソフイアを墓地に送り、ダーク・グ
レファーを特殊召喚。」

遊：「ダーク・グレファーの効果で手札からツインソードを墓地に

送り、デッキからBP「テスサークルを墓地に送る。」

武：「BPか・・・謎だな・・・」

遊：「墓地のツインソードと「テスサークルを2体除外し、BP「ゲイボルグを特殊召喚。」

武：「攻撃力3000か・・・」

遊：「このターン攻撃はできないか・・・カードを1枚セットしてターンエンド！」

武：「ドロー！終焉のカウントダウンを発動。」

遊：「カウントダウンデッキか！」

武：「カードを一枚セット。モンスターを伏せてターンエンド！」

遊：「ドロー！ブレイクコントロールを発動。手札のBP「ゲイボルグを墓地に送り、BP「レッドファンブル」を降臨！！」

武：「儀式も入ってるか・・・」

遊：「魔法力ード！リバースブレイクを発動。お前のセットモンスターを破壊。効果は無効かだ。」

武：「くそ！」

遊：「BP「ゲイボルグでダイレクトアタック！！」

武：「くつ・・・・」

山本武 LP : 1000

武：「この瞬間手札の冥府の使者ゴーズを特殊召喚！…受けたダメージと同じ攻撃力・守備力のカイエンタークンを1体特殊召喚！…攻撃力・守備力は3000！…！」

遊：「ちつ・・・・・BPレッドファンブルで冥府の使者ゴーズに攻撃。」

山本武 LP : 700

遊：「カードを1枚セットしてターンエンド。」

武：「ドロー…」

武：（伏せているカードに）もよるな・・・・・

武：「魔法力カード…サイクロン…お前の2枚目の伏せカードを破壊！」

遊：「カウンター罠発動。BPバリア。墓地のゲイボルグとツインソードを除外し効果を無効にし、破壊する。」

武：「くそ・・・・」

武：「詰んだな・・・・カードを1枚セットしてターンエンド…・・・」

遊：「ドロー。相手にモンスターはない。大嵐を発動。」

武：「くそーーー！攻撃の無力化が！」

遊：「B P ゲイボルグでダイレクトアタックーーー！」

山本武 LP：0

遊：「とこつわけで旅をしているのだ。」

ツナ：「そうなのか・・・俺たちもついていく？？」

リボ：「いやダメだ。まだミルフィオーレファミリーとの闘いがある。また今度な。」

遊：「そうか。じゃあまたな。」

ツナ：「うん。じゃあねー！」

「」
このREBORNの世界は終わる。

・・・かに思われた。

？？？「シシシ・・・まだ終わらないよ・・・」

6話「REBORN!」の世界へ

？？？：「桃里遊我。俺とデュエルだ。」

遊：「何だ？？」

？？？：「俺の名前はベルフュール。」

遊：「ベルフュール？」

ベル：「ああ。俺とデュエルだ。桃里遊我。」

遊：「あ、ああ・・・」

ベル：「シシシ・・・」

遊：（こいつ・・・気持ち悪い・・・）

遊：「さあ始めようか。」

ベル：「シシシ・・・」

・・・・・・・・・・・・・・

桃里遊我 LP：0

遊：「そんな・・・バカな・・・」

ベル：「シシシ・・・負けるわけねえじゃん。だって俺王子だも

۲۰

遊：「くそーーー！」

明：「今度は俺とデュエルだ！！！」

ベル：「あ？？」

明：「今度は俺が相手する！！」

ベル：いいぜ・・・・・シシシ・・・・

明 : () こりやうほう : : : : 気持ち悪い : : : :

——テユエル！！！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7686z/>

俺たちのカード！！

2011年12月31日17時56分発行